

最新事情

他者とともに働き生きるための基本を学び、
埼玉県の商業を担う人材に

埼玉県立深谷商業高等学校

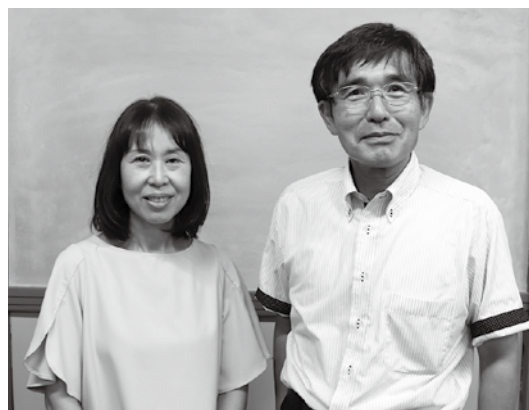
(埼玉県深谷市)

埼玉県の商業を支える人材を育成してきた深谷商業高等学校は100年以上の歴史を持ち、資格試験に力を入れている学校として知られ、卒業生は約2万6000人に上る。同校では、大人としての立ち居振る舞いや常識を身に付けるために秘書検定を取り入れている。秘書検定の取り組みを中心に伺った。

大人のコミュニケーションを 学び、身に付ける

埼玉県立深谷商業高等学校は1921（大正10）年に町立深谷商業学校として創立以来、埼玉県における商業教育を担ってきた。創立直後に、近代日本経済の父と称される深谷市出身の渋沢栄一が来校して生徒に講義を行い、その際に書いた書が、復原された旧校舎（国登録有形文化財）に残されている。

現在、同校の生徒は約800人。1学年は商業科4クラス、会計科1クラス、情報処理科2クラスから成る。大学進学希望者、専門学校進学希望者、就職希望者の割合はおおむね3分の1ずつだが、近年は進学希望の生徒が増えているという。3年生の「課題研究」には幾つかのコースを設けており、商業科と会計科の生徒が選択でき



(左から) 秘書検定を指導する新井弘子先生、並木光二郎先生。「私たち教員は企業での働き方を知りません。秘書検定は私たちにとっても、ビジネス社会ではこのような対応、立ち居振る舞いをするのかというよい勉強になっています」と並木先生

るのが「秘書検定コース」だ。例年、50人前後が秘書検定3級合格に向けて学んでいる。

指導に当たるのは並木光二郎先生と新井弘子先生だ。同校では全商簿記などの資格試験1級取得に力を入れており、2年生までに必須の資格に合格した生徒が、課題研究で秘書検定を選択するという。

「3級は、ある程度、社会経験を積んだ大人であれば分かる問題がほとんどです。それを生徒が解けないのは、社会経験が足りないから。しかし18歳はもう成人であり、分かっていることと恥ずかしいこともあります。3級を題材に、大人としての立ち居振る舞いや常識を身に付けてもらいたいと考えています」と並木先生。新井先生も「3級は基本であり、後に就職するときにも大学生活でも使える知識がたくさん含まれています。私たちは、単に合格を目指しているわけではありません。あいさつや言葉遣い、気



(上) 深谷商業高校。正門から渋沢栄一も訪れた旧校舎が見える



(左) 渋沢栄一が残した書が掲げられた資料室も

「総合実践」の授業の様子。礼に始まり、チームで話し合い、企業での実務を実践形式で学ぶ



遣いについて理解し、上手なやり方を身に付けて、上司や先輩にかわいがられる人になつてもらいたいと思っています」と話す。

新井先生の授業では、最初にアイスブレイクとしてコミュニケーションのトレーニングを取り入れている。「好きなものは何？」から始まり、雑談の会話をつなげていくといった簡単なもの。初めて顔を合わせる生徒とも互いにきちんと言葉を交わし、秘書検定の学習を通してコミュニケーションの取り方も学んでもらうと話す。

「高校生はどうしてもまだ仲のよい友達同士で固まりがち。会社に入ったらそうはいかないと説明し、さまざまな人と一緒に仕事をするときのチームワークについても学んでもらいます」(新井先生)。

生徒にとつて、秘書検定の舞台となるオフィスは未知の世界だ。足りない経験を補うために、並木先生は、自分自身の失敗や大人同士でもコミュニケーション不足でトラブルになったケースなどを事例として話して聞かせている。

また、問題を解くときには、秘書Aではなく相手や部長などの上司の立場で考えてみるようにと説明しているのだと言う。

「生徒はどうしても秘書A側で考えますが、視点を変え、上司の気持ちになつて、部下に何をしてもらいたいのか、どうされるとやりやすいのかと考えるのです。選択肢を読み、『秘書Aがこういう行動をしたら、部長はどう思うだろう。これは困るよね』。そうすることで、何が求められているかがだんだんと理解できてくるようです」(並木先生)。

演習科目で チームワークやマナーを実践

並木先生が生徒に話すのは、社長も部長も最初は皆、同じ一般の社員から始まったのだということ。そこでどのような行動をするか、立ち居振る舞いをするかで評価は変わってくる。

「山田部長も以前は秘書Aだったのかもしれない。きつと優秀だと認められたから部長になったのだろう。では一般の社員が優秀だと評価されて係長や課長になるには、どのような考え方、行動が求められるのか。このように言う生徒は面白がつて考えてくれます」(並木先生)。

並木先生は商業科3年生の必修科目「総合実践」と選択科目「商品開発と流通」も担当している。これ

らは商業科目の総仕上げ。「総合実践」では会社組織をそのままに模擬取引をして書類作成や経理業務を行う。「商品開発と流通」では地域の企業に生徒が交渉して商品の企画開発を行うが、地元の企業に電話をかけてアポイントメントを取り、訪問してあいさつするなど、まさに秘書検定で学んだことも実践させている。

「これらの科目では教員はファシリテーターであり上司役。ペアやグループで活動するため、チームワークが求められる科目です。割り振りは教員が行うので、これは人事ですよね。生徒は、そこで一緒になったメンバーと、うまくコミュニケーションを取りながら進めなければなりません。課題研究で秘書検定コースを選択した50人の生徒が複数クラスに散らばっている中で、コミュニケーションをリードする役割をしてくれたらと期待しています」(並木先生)。

新井先生は、生徒には高校生である今のうちに、他者を意識し、関わり合いながら生きていくための力を身に付けてほしいと話す。

「一人では生きていくことはできません。仕事でも必ず誰かと一緒に進めていくことになるのです。そのときに、相手ときちんと向き合える



「商品開発」で生徒が地元の製菓メーカーと作ったオートミールクッキー。深谷市出身の洗沢栄一にちなんだ企画だ

ようになってもらいたいと思っています。中には、あまりコミュニケーションが得意でない生徒もいるのですが、秘書検定では特にあいさつの大切さを説明し『私と廊下で会ったときは、必ずあいさつしてくださいね』と言っています。4月にはもじもじしていた生徒も、3カ月たてばしっかり顔を見て声をかけてくれるようになります。成長は確実に見えています。

100年以上の歴史を持つ深谷商業高校の卒業生は、県内の企業や商店、行政などのあらゆる場所で活躍している。「いつも地域から見られていることを、生徒もよく理解している」と並木先生。「地域の経済を背負い、街を活性化できる人になってくれることを期待しています」。

秘書検定で知った よい人間関係の大切さ

商業科3年生の鈴木梨央奈さん、会計科3年生の原口陽奈さん、東郷遥希さんは、課題研究で秘書検定3級を学び合格した。

鈴木さんは就職希望。卒業前にビジネスマナーについて深く学んでおきたいと思い、秘書検定を選択した。「正しい言葉遣いを学べたことが、とても役に立ちました。二重敬語やアルバイト敬語が間違っていることも分かりましたし、実際に社会に出たときに使えそうです」と笑顔。職場での立ち居振る舞い、上司不在時の判断やその基準について理解できたと言う。

原口さんは、ドラマで見た「秘書」がカッコ

いいと憧れ、1年生のときに独学で3級を受験したが、残念ながらそのときは不合格。改めて勉強して難しかったのは、上司不在時の対応などの判断だ。「不在の理由まで言うてはいけななど、私が選んだ選択肢では立ち入り過ぎ、やり過ぎだということもあって、考え方が難しかったです」と振り返る。

東郷さんは「もともと人と接するのが苦手。秘書検定で、うまく人と接するための手掛かりが得られるかもしれないと思いました」と話してくれた。問題文を読んで状況を理解するのは難しかったが、逆に絵解き問題は分かりやすかったと言う。イラストのおかげで場面が想像しやすく、問われていることをきちんと把握することができたそうだ。

先生方の言う、大人としての基本、他者との関係づくりの基本を、生徒たちはどのように捉えたのだろうか。

「私は来年から働くことになりました。緊張して上司とうまく話せなかったらどうしようかと不安だったので、学んだことは上司との関係づくりを生かすことができそうです。入社前にはテキストを繰り返し読んで復習しようと思います。秘書検定は想像していたよりも楽しく学ぶことができました。就職してからでも、いつかは上位級を受験したいです」(鈴木さん)。

「社会人としての態度としても、職場での人間関係づくりのためにも、明るく振る舞うことは大事なのだとうよく分かりました。私は将来はタ

レントマネジメントの仕事を目指しており、その分野の専門学校に進学予定です。言葉遣いや電話応対はとても大事だと思うので、先に勉強しておいてよかったです。他の人より一歩先に進んでいるはず、というのが少しだけ自信になっています」(原口さん)。

「秘書検定を学んで、友達が増えました。コミュニケーションを取るには自分から話しかけることが大切だと分かり、実践してみたからです。人と接するときは相手に嫌な印象を与えないこと、感じがよいと思ってもらえることが大事なのだとうよく分かりました。僕がすぐできそうなことは、あいさつ。感じのよいあいさつを実践していきたいです」(東郷さん)。

実務に生かせる知識と技能を基本に、誰かと一緒に仕事をする。そのためにはよい人間関係をつくるのが大事だと、生徒たちは深く理解している。



(左から)会計科3年生の東郷遥希さん、原口陽奈さん、商業科3年生の鈴木梨央奈さん。全員、秘書検定3級合格